

令和7年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 片柳中学校） 学校番号232

学 校 教 育 目 標	「夢をはぐくむ学校」 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒
目 指 す 学 校 像	「地域から信頼され、地域とともに歩み、生徒・教職員一人ひとりの自己実現・Well-being が図れる学校」

重 点 目 標	1 非認知能力も含めた真の学力の向上 2 安心・安全な環境の下、心豊かな生徒の育成 3 コミュニティスクールを核とした地域と一体となった教育活動の展開 4 持続可能な新しい学校の在り方を求める教職員の育成
---------	---

年 度 目 標				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	<現状> ○令和6年全国学力・学習状況調査では、数学は全国・県平均を少し上回っているが。国語は全国・県平均よりやや下回っている。 ○授業には真面目に取り組み、探究的活動にも意欲的に取り組む。 <課題> ○全国調査の結果から数学は図形に、国語は書くことに課題が見られる。言語活動や表現力に苦手意識がある生徒が多い。 ○家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が向上しない。	・学ぶ意味や楽しさの実感。 ・6つの資質能力の向上（情報活用能力、言語能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション力、学びに向かう力、他者と協働する力） ・学びに向かう力の向上 ・実社会の出来事に関心を持ち学びを活用したか。	①朝学習、小テスト、単元末テストの充実。ICTを活用した家庭学習の習慣づけ。よむ yomu ワークシートの活用。 ②カリキュラム・デザインマップを活用したコラが授業の推進。 ③ICTを活用した自由進度学習や個別最適な課題を設定した授業を実施。 ④総合的な学習の時間でキャリア教育 STEAMS 教育を融合した活動の実施。 ⑤教科横断的探究学習を教科内で実施。 特に生徒が自ら課題見つけ探究する生徒主体の学習活動に取り組む。（個別最適な学びと協働的な学びの一体化）	①生徒学校評価「授業でわかった、できた」という実感95%以上。 ②生徒学校評価家庭学習をしている80% ③学びの指標「ICTの活用」3.3以上。 ④保護者学校評価「学校はICTを授業で活用していますか」90%以上。 ①生徒学校評価「授業で課題を考えたり自ら解決したりすることにより取り組みえたか」95%以上。 ②市学調「授業で学んだことを他の学習に生かしていますか」90%以上。
2	<現状> ○令和6年全国学力・学習状況調査、質問紙「自分にはよいところがある」肯定的回答は全国平均を10P以上上回っている。 ○学校評価「学校は楽しいですか」肯定的回答98%。昨年度3年生は100%。 <課題> ○不登校傾向生徒の増加、心の不安を訴える生徒の増加。	・自己肯定感や有用感、達成感の向上。 ・キュリア形成につながる活動の充実 ・生徒一人ひとりに寄り添い、大切に支援がなされたか。	①様々な分野から社会人講師を招聘しキャリア発達を促す体験的活動を多く実施し、将来への夢や展望を持たせる。（かたやなぎエンジン等） ②①を通し好奇心、創造性、協調性等、非認知能力の育成を図る。 ①毎日のスクールダッシュボードの活用と生活記録ノートの交換を重視し心の変化に迅速に対応する。 ②年2回三者面談、学期ごとの二者面談、アンケート等生徒に寄り添う。Sola る一む等の一層の充実。	①市学調「将来の夢や目標を持っているか」80%以上。 ②生徒学校評価「仲間のよさを理解し、お互いを認め合っている」98%以上。 ①学校評価保護者アンケート「お子様の困り事や悩み事に対し学校は適切に対応していますか」85%以上。 ②学校評価生徒アンケート「片柳中は落ち着いた環境ですか」85%以上。
3	<現状> ○学校運営協議会に生徒が参加し、生徒と地域との協働活動が開始されている。 ○令和6年全国学力・学習状況調査、質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」肯定的回答は全国平均を16P上回っている。 <課題> ○コミュニティスクールを核とした生徒、保護者、地域との協働活動のさらなる充実。 ○部活動地域展開の継続。	・地域に対し貢献できたか。 ・義務教育学校に向けた小中一貫教育のさらなる推進 ・生徒主体の持続可能な部活動地域展開。	①地域行事の意義と生徒との関わりについての啓発活動。 ②小中合同研修会、小中教員派遣、児童生徒間交流のさらなる推進。 ③地域ボランティア報告会や振り返りを共有する機会の設定。 ①現状の成果と課題の把握と、来年度以降のかたやなぎクラブ持続へ向けた諸課題の解決。 ②自治会回覧で地域人材募集のチラシ配布など地域人材の発掘。	①学校評価「ボランティア活動に参加したことがありますか」90%以上。 ②市学調「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」85%以上。 ①生徒保護者学校評価「部活動に積極的に取り組み充実していますか」85%。 ②令和8年度以降の部活動地域展開の方向性の決定。
4	<現状> ○校務DXにより、ペーパーレス化や校務の効率化が進み、備品等の廃棄なども進めている。 ○体育館にエアコンが設置され、気温上昇による運動制限がなくなり快適な運動環境が整った。 <課題> ○トイレの臭い、雨天時の渡り廊下の滑り、雨漏りなど、校舎全体の整備が必要である。	・校務のDX化の進捗状況。 ・印刷関係消耗品類の削減。 ・課題箇所の整備状況の向上。	①文科省の定める校務DX化の実例にできる限り近づける。 ②備品台帳の整理と不要物品の廃棄と再利用も含めた検討。 ③適切な予算執行と保護者負担の軽減。 ①安全点検の着実な実施による修繕箇所の把握と配当予算で可能な修繕の実施。	①保護者学校評価「学校は清掃が行き届いていますか」95%以上。 ②紙代、印刷関係消耗品の20%削減 ③保護者からの教材費等の徴収金を10%削減をめざす。 ①トイレ改修工事に伴う安全面の配慮ができたか。 ②渡り廊下の滑り止めや小破修繕の確実な実施。
5	<現状> ○働き方改革への理解は進んできた。また、研修の奨励により、授業方法について新しい発想の下での工夫や改善に向けて共通認識は形成されつつある。 <課題> ○生徒主体の指導観、評価観への転換。教えるからコーチング基本のファシリテーターへ。 ○2年後の研究発表に向けた校内研修の一層の充実が必要。	・新しい教育情報の収集に努め、授業改善に取り組んでいるか。 ・業務のより一層の効率化と削減が図られているか。	①全国的な研究会や講演等へのオンラインも含め積極的な参加。最新の教育情報を収集し、自己研鑽するための時間の確保。 ①Teamsの活用による電子起案や会議前の情報共有を実施。 ②管理職との面談による相談の充実。 ③AIや各種ソフトの導入等ICT活用を進め、さらなる業務の効率化を図る。	①学びの指標における主体的・探究的学び共に3.3以上。 ②一人1回以上の校内授業公開と全教科授業研究会の実施。 ③誌上も含めた研究中間発表会の実施。 ①各種会議時間50分以内を目標。 ②ストレスチェックにおける上司の支援9.0以上。 ③全教職員の年間12日以上の年休取得。